shizuoka hikimono

静岡ひきもの

Shizuoka Hikimono Project

The Hikimono (woody products by turning lathe)

shizuoka hikimono

静岡ひきもの

Shizuoka Hikimono Project

The Hikimono (woody products by turning lathe)

shizuoka hikimono

静岡ひきもの

Shizuoka Hikimono Project

The Hikimono (woody products by turning lathe)

静岡挽物

挽物とは「ろくろ」を使って木を回転させて刃物で削って作る製品です。1864年に箱根から技術が伝わったと言われていますが、第二次大戦後に始まった輸出が産地となった大きなきっかけです。現在は台所用品や文具などの完成品から家具、雛具、建築などの部品まで多様な製品を製造しています。静岡ひきものプロジェクトは、静岡市が主催する「平成29年度伝統工芸商品開発支援プログラム運営業務」の受託により推進しているものです。デザイナーと卓越した技術を持つ職人とのコラボレーションの事業です。

浅間神社

久能山東照宮

静岡市の伝統工芸

静岡市には四百年余に及ぶ伝統工芸の歴史があります。静岡が駿府と言われていた今川時代（約470年前）には、お椀などの漆器が作られていた事がわかっていますが、産業としての基礎ができたのは江戸時代（約370年前）になってからと言われています。徳川家による駿府城や久能山東照宮、浅間神社等の造営に際し、全国から宮大工、彫刻師、塗師、金具師などの優れた職人が集められました。特に文化元年（1804～）の浅間神社の第二期造営工事では60年余の歳月が費やされたことで、二世代以上にわたる工期となった事と気候の良さも手伝って、職人達は駿府に住み着き技術を教えたため、伝統工芸は盛んになったと言われています。鏡台、針箱、お椀、重箱、竹細工などは全て漆塗だったため輸出漆器として江戸末期には大量に輸出されていました。このように静岡市の伝統工芸は漆器から始まり、蒔絵や塗下駄、挽物などの産業が次々とおこりました。その他にも和染め、雛具・雛人形など多数の工芸品が産業として成長し、分業化によって大量の生産が可能となりました。静岡市の伝統工芸は「美術工芸」ではなく「産業工芸」の歴史がほとんどだったのです。
現在、市内の伝統工芸品には、経済産業省が指定する「伝統的工芸品」には竹千筋細工など3品目、静岡県が指定する「郷土工芸品」には９品目があります。

〈静岡挽物組合〉

□ 小田 清 ／ 小田工芸
421-0113 静岡県 静岡市駿河区下川原 5丁目6-27
Tel/Fax : 054-258-0733

□ 白鳥 博之 ／ 白鳥工房
420-0003 静岡県 静岡市 葵区 片羽町 8
Tel/Fax : 054-271-0502

〈静岡特産工業協会〉

422-8006 静岡県静岡市駿河区曲金三丁目1-10
Tel : 054-281-2999／Fax : 054-284-1070
jibasan@sea.plala.or.jp

〈プロデューサー〉

日原 佐知夫 ／ 創造意匠 Hihara Industrial Design Office
420-0065 静岡県 静岡市 葵区 新通1-5-6
Tel : 054-652-0057／Fax : 054-652-0058
hihara@sachio.jp
http://www.sachio.jp

〈デザイナー〉

■ 五十嵐 久枝 ／ IGARASHI DESIGN STUDIO
114-0023東京都 北区 滝野川7-44-6 R.G.S. -3B
Tel : 03-3576-5854
www.igarashidesign.jp

■ 福嶋 賢二 ／ KENJI FUKUSHIMA DESIGN
665-0884兵庫県 宝塚市 山本西1-8-2
Mob : 090-6558-5403
info@kenjifukushima.com
http://www.kenjifukushima.com

■ 橋本 崇秀 ／ TAKAHIDE HASHIMOTO DESIGN
653-0814兵庫県 神戸市 長田区 池田広町13-1-1F
Tel/Fax : 078-691-9011
smackdesign@be.wakwak.com
http://smackdesign.blogspot.jp

■ 村松 岐崇 ／ muramatsu design studio
421-0406静岡県 牧之原市 勝田1440
Mob : 080-5107-9545
info@michitakamuramatsu.com

■ Photography by TAKAHIRO INOUE

〈 協力 〉

■ 浅野 克 ／ モーンラーク
106-0047 東京都 港区 南麻布 5-14-14
Tel : 03-3473-1911／Fax : 03-3444-2683
mornlark_d@ybb.ne.jp

■ 神津 宏昭 ／ コーズデザイン
432-8023 静岡県 浜松市 中区 鴨江4-34-50
Tel : 053-454-4919／Fax : 053-454-4919
kozu_d@f8.dion.ne.jp
http://www.kozudesign.com

■ 清水 俊彦 ／ 創デザインオフィス
422-8063 静岡県 静岡市 駿河区 馬渕3-14-31-7
Tel : 054-285-0518／Fax : 054-285-6273
sodesign@yk.commyufa.jp

■ 鈴木 啓子 ／ atelier Su'
420-0839 静岡県 静岡市 葵区 鷹匠2-21-8
日吉さかえビル 4 F
Tel : 054-252-0038／Fax : 054-252-0038
atelier.su@nifty.com
http://www.ateliersu.com

■ 土屋 晃一 ／ 土屋デザイン事務所
422-8005 静岡県 静岡市 駿河区 池田1171-3
Tel : 054-263-0708／Fax : 054-263-0881
deko_coach@yahoo.co.jp

■ 野木村 敦史 ／ すまうと
421-1221 静岡県 静岡市 葵区 牧ヶ谷2062
Tel : 054-374-5072／Fax : 054-659-1960
smaut@smaut.net
http://www.smaut.net

■ 花澤 啓太 ／ mag design labo.
421-0122 静岡県 静岡市 駿河区 用宗1-27-5
Tel : 054-270-7226／Fax : 054-270-7226
hana@mag-labo.net
http://mag-labo.net

■ 静岡漆器工業協同組合〈駿河漆器〉
理事長・安藤 嘉津夫
420-0068 静岡県 静岡市 葵区 田町 7丁目71
Tel/Fax : 054-253-8707

□ 岸本 真紀 ／ 岸本挽物製作所
424-0831静岡県 静岡市 清水区 入江1丁目16－12
Tel/Fax : 054-366-2791
kisshi@sf.tokai.or.jp
http://kisshiandbu.chu.jp

□ 百瀬 聡文 ／ 挽物所639
424-0401静岡県 静岡市 清水区 中河内639 番地
Tel/Fax : 054-396-3883
moyocami@hikimonojo639.com
http://hikimonojo639.com

五十嵐 久枝 ／ IGARASHI DESIGN STUDIO

木を回転させて切削する挽き物。その削られた木の丸みは、直に手で触れたいと思わせてくれる柔らかい温かみがにじみでている。そこで「触れたいかたち」を探すことをテーマにものづくりを試みました。「突起」「丸み」「回る」かたちは、ひとつひとつが人の手で削られていて、僅かなかたちの差異が唯一無二のものの魅力であり、有機的なものを感じさせてくれるのです。

■ くり（蓋付小物入）〈 製造・販売：白鳥工房 〉
ケヤキ材／S：φ65×48／M：φ80×56／L：φ95×56㎜

■ こま（小物入）〈 製造・販売：白鳥工房 〉
ケヤキ材／φ75×40㎜

■ もち（高台付菓子皿）〈 製造・販売：白鳥工房 〉
ケヤキ材・カツラ材／S：φ100×50㎜ ／M：φ125×45㎜ ／L：φ150×40㎜

村松 岐崇 ／ muramatsu design studio

普段何気なく使う道具をシンプルなカタチに。だけど使い易く。しずおか挽物の職人が手作業で丁寧にしあげ、その精度精密さや、手作業ならでわのあたたかさが感じとれる商品になっています。

■ 欅の線香入れ 〈 製造・販売：白鳥工房 〉
スティック型の線香を入れる道具。お祈りのためや、フレグランス用。
ケヤキ材／φ32×185㎜

■ 文庫ラック 〈 制作：白鳥工房 〉
箱に装飾された挽物の柱が取り付いたラック
ブナ材・ウォールナット／350×210×290㎜

■ 積重ねカップ 〈 制作：小田工芸 〉
大中小のスタッキング収納ができるカップ
ケヤキ材／S：φ67×75㎜／M：φ74×80㎜／L：φ74×80㎜

■ 茶筒 〈 制作：白鳥工房 〉
コーヒー豆や紅茶葉なども応用可能。内蓋あり、密封に優れ湿気を防ぐ。
ケヤキ材(つまみ／茶の木)／φ75×135㎜

福嶋 賢二 ／ KENJI FUKUSHIMA DESIGN

お茶の種類に合わせた湯呑みシリーズ。番茶やほうじ茶など日常使いのお茶は、量を飲むことができるように、なつめのような柔らかくどっしりした形状に。一方煎茶や玉露などの緑茶は、本来人をもてなすハレの日に飲むものです。小さな茶碗で香りを楽しめるように口が広く返しが付いているのが特徴。

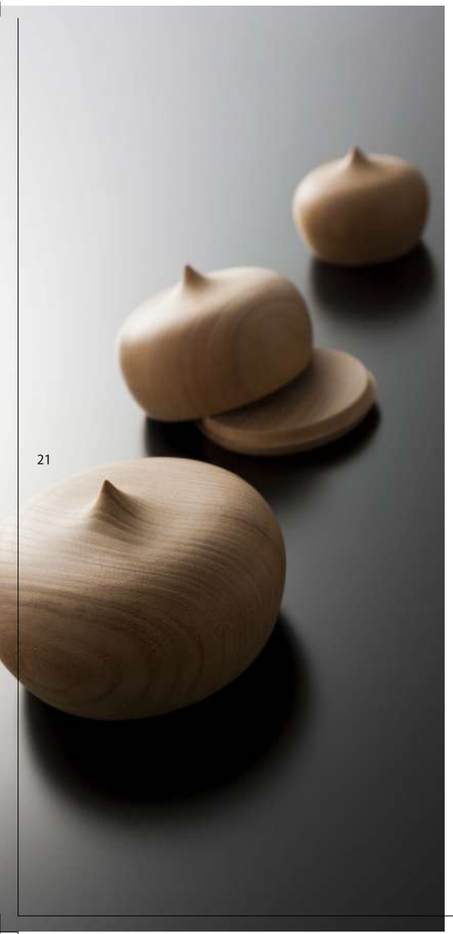
■ 緑茶カップGTC
ケヤキ材／a:φ72×H85㎜／b:φ80×65㎜〈 制作：白鳥工房 〉・c:φ75×65㎜／d:φ80×H56㎜〈 制作：小田工芸 〉

橋本 崇秀／ TAKAHIDE HASHIMOTO DESIGN

現在の職人はモノを作ることには長けていますが、モノを売ることに長けている訳ではありません。その中で、これまでの商品とカテゴリーが大きく異なる商品は売り辛い商品になってしまいます。現状のカテゴリーを少し広げつつも、これまでの商品との繋がりも大切にした新しい商品たちです。

■ 挽き物の材料である「木」をモチーフにしたゴブレット 〈 制作：小田工芸 〉
ヒノキ材 ／S：φ50×85㎜／M：φ64×110㎜／L：φ79×135㎜

■ 自宅や飲食店で気軽に使える木のカップ 〈 制作：小田工芸 〉
ヒノキ材 ／φ80×90㎜



静岡市の伝統工芸

江戸時代から盛んになった静岡市の伝統工芸は、昭和に入り幾つかの現代産業へと変化していきました。しかし、平成となった現在でも多数の伝統工芸が脈々と活きづいており、高い技術の製品が職人の手で生み出されています。

■ 駿河和染
市内に紺屋町などの名が残るように静岡市は古くから染物が盛んに作られてきました。明治期に入り、やや停滞気味となりますが大正後期の芹澤銈介の登場により、和染の産地として再び活気が戻ります。型染による藍染を中心として、現在でも、のれん・テーブルセンター・風呂敷・タペストリーなど多くの製品が生産されています。

■ 駿河塗下駄
塗下駄は明治になり、市内の漆職人だった本間久次郎(きゅうじろう)が考案したものです。輸出漂器から転職した多数の職人により全国一の生産を誇りました。やがて高級塗下駄といえば静岡といわれる程になり、現在でもユニークで斬新なデザインの漆塗の下駄が職人の手により生産されています。

■ 駿河張下駄
明治期に下駄の表面に桐の薄い板を張ったものが作られたのが始まりだと言われています。戦後からは和紙や紙布(しふ)、突板(つきいた)などを貼るようになりました。多様なデザインやソフトな履き心地が特徴です。

■ 駿河蒔絵
蒔絵とは、漆を塗った製品に金や銀などの粉を蒔(ま)いて絵や模様を描くものです。文政11年(1828年)に信州の天領という人が伝えたのがはじまりと言われています。文箱や硯箱などをはじめ雛具などの蒔絵が主流でしたが、現在はアクセサリーや下駄、盆、花器など多くの商品に描かれています。

■ 静岡挽物
挽物とは「ろくろ」を使って木を回転させて刃物で削って作る製品です1864年に箱根から技術が伝わったと言われていますが、第二次大戦後に始まった輸出が産地となった大きなきっかけです。現在は台所用品や文具などの完成品から家具、雛具、建築などの部品まで多様な製品を製造しています。

■ 駿河竹千筋細工
「駿河竹細工」と呼ばれる竹細工が古くから作られていましたが、天保11年(1840年)に岡崎の藩士である菅沼一我という人が技法を伝えたのが始まりといわれています。「ひご」を使った細工がその特徴です。昭和51年、県内で初めて国の伝統的工芸品に指定されました。現在は花器や行燈を中心にお盆、菓子器、虫かご、バッグなど様々な製品が生産されています。

■ 駿河雛具／雛人形
雛具（ひなぐ）は明治頃から生産されていましたが本格的に製造され始めたのは関東大震災がきっかけです。一方、雛人形の本格的製造は昭和に入ってからです。雛具は蒔絵、漆器、木工、挽物等静岡市の伝統工芸技術の集大成ともいえ、全国でも主流の生産地です。現在では七段飾りなどの大きなセットは少なくなり、親王だけのモダンな商品が多くなっています。平成6年に国の伝統的工芸品に指定されています。

■ 駿河漆器
江戸時代の浅間神社造営等がきっかけとなり、漆を塗った製品である漆器は大量に生産されるようになりました。古くは鏡台、重箱(じゅうばこ)、竹製品など多くの商品に漆を塗られていました。輸出漂器といえば静岡と言われた時代もありました。蜻蛉塗(せいれいぬり)や金剛石目塗(こんごういしめぬり)などの技法が代表的です。現在ではアクセサリーや箸、お盆を始めガラス製品など多くが作られています。

■ 駿河指物
江戸期から指物師は差金(さしがね)を用いて、針箱(はりばこ)、硯(すずり)箱、文箱(ふばこ)などを作っていましたが、明治になって輸出を中心に内外に向け大量の漂器が生産され、その木地である指物も量産され産地となりました。その後、指物技術は家具や小木製品などへと発展し、木工産地の源となっていきます。現在でも、文箱、盛器(もりき)などの小物から指物家具まで、指物は製造されています。

浅野 克 ／ モーンラーク

何故、工場には工場用の家具がないのだろう。
オフィスファニチャーがある。だが、ファクトリーファニチャーという言葉はあまり聞かない。
工場では立ち作業が主であり、流れ作業でない限り、移動が激しく、座って作業する時は、立ったり座ったりをくり返す。こんなスツールはどうだろう。作業（工作、台所仕事など）をする時、ちょっとの間座る、そして立ち易く前傾姿勢がとれるスツールは、、、。　　家具工場のげんばから

■ Ch-OTTO FACTORY STOOL 〈 製作:遊木舎NISHIO (株) 〉
W400×D360×H710㎜ ／W400×D360×H610㎜

神津 宏昭 ／ コーズデザイン

厳選した檜材から、伝統の職人技により機能的で肌触りの良いぐい呑みカップが生まれました。
底部には補強および重量バランスの観点から黒檀を一部使用し、それが全体を引き締めるアクセントとなっています。

■ ヒノキぐい呑みカップ 〈 製作：羽根田隆治 ／ 木美匠ハネダ 〉
檜、黒檀／φ52×70㎜

清水 俊彦 ／ 創デザインオフィス

これらの作品は長い伝統をもつ駿河漆器の近代化をめざして、〈上質な日常の暮らしのための新しい漆器づくり〉をコンセプトに、デザイナーと漆器職人たちとの共同プロジェクトで生まれた作品、商品であります。

■ 漆器によるもてなしの器セット
（酒杯・赤）（酒杯・黒）（ピッチャー）／木地挽物加工：鈴木挽物）
（長方形角皿）（正方形 角皿A）（正方形 角皿B）
木地加工：浅井琢也　漆塗り加工：新井吉雄

■ 新茶もてなし茶器セット・五月の風
2010年世界お茶まつりで「ワールド茶器デザインコンテスト金賞受賞
さわやかな5月の風の流れをイメージした茶托と茶碗のセットです。
（茶托トレー）木地製作：浅井琢也
（茶碗）挽物加工:鈴木挽物・漆塗り加工：鳥羽俊之

■ 猛宗竹による小鉢ー木地
挽物加工：岸本真紀

■ 猛宗竹による小鉢–漆塗り
漆塗り加工：新井吉雄

■ 漆塗り小皿　黒・赤（螺鈿象嵌加工付き）
漆塗り加工：新井吉雄

■ 漆塗り小鉢 - A （螺鈿象嵌加工付き）
木地挽物加工：鈴木挽物　漆塗り加工：新井吉雄

■ 漆塗り小鉢 - B （螺鈿象嵌加工付き）
木地挽物加工：鈴木挽物　漆塗り加工：新井吉雄

岸本 真紀 ／ 岸本挽物製作所 Kisshi&bu

■ core flower vase　コアフラワーベース
バイトピックスティックと同様のフラワーベース。果物の芯（コア）をイメージ。
ブナ材 オスモオイル使用　4色展開（ブルー、ホワイト、ナチュラル、ブラック）
100㎜×50㎜（試験管入れたサイズ）

■ bite pick stick　バイトピックスティック
弊社2代目が静岡挽物の産業を携わる全盛期（70年代）の刃物を利用して家具の脚などをリデザインした小物入れ。爪楊枝やお香、スタイラスペンなどを入れてお使いください。
ブナ材 オスモオイル使用
4色展開（ブルー、ホワイト、ナチュラル、ブラック）　75㎜×50㎜

■ décoration table　デコレーションテーブル
ビンテージの挽物の刃物を使用。デザートを乗せる。
コンポートよりも小さめな飾り台はアクセサリーなどを置いて。
ホワイトアッシュ材　オスモオイル使用
2色展開（ブラック、ナチュラル）
150㎜×125㎜

■ pear balance　ペアバランス
すべてひとつづつ手削りでつくられたペーパーウェイト。
起き上がりこぼしのようにゆらゆら動きます。
<ブラック>　ウォールナット／<ホワイト>　ハードメープル
※ヘタ、ローズウッド（鉛の錘入り）。 ゴマ油+菜種油仕上げ
70㎜×40㎜

鈴木 啓子 ／ atelier Su'

Viteとはイタリア語でネジの意味。
３つのパーツがネジで組み立てられた、組み合わせ自由な木製ワイングラス。
静岡の伝統工芸である挽物に、アクセントとして蒔絵とウッドバーニングを施してある。

■ Vite 〈 販売： atelier Su' ／ 蒔絵：諸井治郎／ 焼き絵：焼き絵工房 Sepia Color 〉
メープル材／食品衛生法認可ウレタン塗料、蒔絵、ウッドバーニング
φ70×190 ㎜

土屋 晃一 ／ 土屋デザイン事務所

茶席で常寸と云われる皿で珍しい玉杢の品。

■ 盛皿 〈 製作：挽物所 639・百瀬聡文 〉
楊（タモ）玉杢、うるし塗り仕上げ。
φ175×22 ㎜／φ210×23 ㎜／φ210×25 ㎜／φ240×24 ㎜

百瀬 聡文 ／ 挽物所 639

■ 中皿
モノを通じて、感動と幸せを伝えたい。
ホワイトアッシュ材、ウォールナット材、ホワイトアッシュ材茶染め
φ160×23㎜

■ キッカケ（鍋敷き）
鍋を囲んで食事をするキッカケになれば嬉しいです。
ホワイトアッシュ材、ウォールナット材、など
φ160×23㎜

静岡漆器工業協同組合〈駿河漆器〉

■ 金剛石目塗 花瓶・桃
制作：鳥羽俊行・鳥羽漆芸

■ 酒杯
デザイン：清水俊彦
制作：新井吉雄・あらい漆工房・藤中知幸・漆器製造販売 藤中

野木村 敦史 ／ すまうと

冷たいものを注いでも汗をかきにくく、熱いものを注いでも手に持つことができるという“木のチカラ”を利用して口当たりの良いカップがつくりたかった。口当たりによって飲み物の風味がかわると感じるのは私だけだろうか？
“木のチカラ”と”口当たりのチカラ“を体感してほしい。

■ 薄づくりカップ　大/小 〈製造元：すまうと〉
シルバービーチ／大φ70×90㎜ ／小φ60×60㎜

お酒をそそぐ片口には垂れない切れの良さが欲しい。お酒を飲むおちょこにはお酒の味・香りを生かしてくれる口当たりの良さが欲しい。そんな思いから薄づくりの酒器に挑戦しました。美味しいお酒といっしょにより楽しい時間を過ごしください。

■ 薄づくり酒器　片口/おちょこ 〈製造元：すまうと〉
シルバービーチ／大φ70×90㎜ ／小φ60×60㎜

Photography by 新澤 一平 Ippei Shinzawa Photograhy

花澤 啓太 ／ mag design labo.

国産ヒノキを削り出した一輪挿しは、液体容器の定番を模して作られている。
その液体容器が示すサイクルを考えていく。国産木材が使われていくことで森は循環する。
ヒノキは柔らかい木目の一輪挿しとして、新しい花や芽の土台となる。

■ BASE 〈製作：挽物所639・百瀬聡文〉
ヒノキ／BIN（L）77×77×300㎜／BIN（M）60×60×242㎜
BIN（S）48×48×140㎜／CAN（L）64×64×122㎜ ／CAN（S）52×52×106㎜